

# 福島復興知学の深化と展開: ミルフィーユ型人材の育成基盤構築

#### 東京大学 採択大学等名

(共同申請校:福島工業高等専門学校)

#### 連携市町村名

いわき市、大熊町、広野町、 葛尾村、富岡町、楢葉町

#### 取組概要

#### 【事業概要】

2018 - 2020年度の「復興知」事業を通じて、学内ネットワークと浜通り東大拠点ネットワークを構 築した。さらに2022年3月9日に福島県と東京大学との包括的な連携協定を締結した。本事業では、上 記の成果を深化させることで、福島の創造的復興に貢献できる人材(重層的なスキル・知識を獲得し た「ミルフィーユ型人材」)を浜通り内外に育成する。また、2023年4月22日に楢葉町x東大博物館の 連携ミュージアムを開館した。ミュージアム事業を通して他の「復興知」事業や市町村との連携を強 化し、事業を面的に展開・発展させる。本事業のHPを開設し、広く情報公開している。

#### 【市町村との連携体制の構築】

6市町村と連携して事業を実施する。『浜通りミュージアム・ロード』事業(右図)として浜通りに 所在する多様な資料館等が連携し、地域の文化的活動・教育的活動のゆりかごとして機能することを 目指した取り組みを実施する。自治体間の「架け橋」としても機能することを目指す。

#### 【5年間の人材育成目標】

これらの事業を通して重層的なスキル・知識を獲得した「ミルフィーユ型人材」を育成することを 目標とする。福島では地域の創造的復興を担う未来人材、地域外では世界的視野で福島の発展を支え る人材の育成を目指し、様々な取り組みを進めている。

# 新產業創出 情報発信 地域活性化 持続的教育基盤 放射線利活用人材 育成プログラム 復興知リーダー 育成プログラム



# これまでの成果



いわき市:金融教室



大熊町:ライトアップ



葛尾村:動画教室



ことばのワークショップ



富岡夏祭りでの科学教室



楢葉町: 大地とまちのタイムライン

【地域の創造的復興を担う未来人材の育成】

1. 復興知未来人材育成プログラム

◇出前授業・復興知科学教室を40回以上開催し、のべ1500人以上の子供達に科学教育 プログラム等を提供した。例えば、小学校の正規授業の中でICT教育の一環として、葛 尾小学校の5・6年生4名に動画教室を行った。また楢葉中学校ではSNSリテラシー講座 を実施し、生徒と保護者100名程度が参加した。このように、学校や地域のニーズや実 情に合わせた教育プログラムの開発を行った。また、Uターン人財の育成について

「ぽーぽいプロジェクト」に協力している。このプロジェクトでは、4つの連携市町村 に名義後援されている。450名に福島の食と情報誌を送付した。

2. 復興知リカレント教育プログラム

◇実務的な放射線教育:福島高専及び地元企業の社員を対象にした国家資格である放射 線取扱主任者の資格取得をサポートする講義をオンラインで開催した。東京大学の先 進的な放射線創薬に関する研究を紹介した(のべ500名以上に教育プログラムを実施)。 また、地域の魅力を情報発信できる人材の育成を目指す教育プログラムを構築し、 ミュージアム連携事業などで実施した。

【地域外から復興を支援する人材の育成】

3. 浜通りエヴァンジェリスト人材育成プログラム

◇年3~4回の浜通りフィールド学習を実施し、年間100名程度の大学生が復興やイノ ベーション・コースト構想について学ぶ活動を実施している。例えば、県内外の薬学 生が福島県浜通り地域で原子力災害からの復興の歩みを学ぶとともに、放射線創薬に 関する基礎と応用を体系的に学ぶ教育プログラムを実施した。

4. 放射線利活用人材の育成プログラム

放射線の特性を活かした放射線創薬研究を実施することで、高度な人材育成を行い、 イノベーション・コースト構想の推進に貢献した。

### 今後の展開

#### 【教育プログラムについて】

小中高生を対象とした「復興知未来人材育成プログラム」は、連携する自治体の教育担当部 署・学校と協力し、無理なく実施できる教育プログラムを構築する。ミュージアム連携事業を 活用した「復興知リーダー育成プログラム」は自治体における職員教育プログラムとして成熟 させ、観光開発事業に参加した企業には自立的にプログラムを展開を促す。廃炉作業を含め、 福島県浜通りの復興は今後数年で終結できる課題ではない。一方、未曽有の原子力被害に直面 し、復興に向けて取り組んできたこれまでの作業や教育研究活動から得たものは多い。そのた め、本事業終了後も「放射線利活用人材の育成プログラム」「浜通りエヴァンジェリスト人材 育成プログラム」は大学における正課授業として取り組んでゆく。教科書「福島復興知学講 義」の改訂も計画している。

# 【研究プログラムについて】

本事業で実施する研究成果は学問的価値も高いため、科研費や民間財団からの助成金を活用し、 持続的に発展させてゆくことが可能と考えている。医薬品開発に資する研究成果も得られるこ とから、研究成果を企業との共同研究にも利用し、資金の獲得や各種助成金の獲得を目指す。 自動運転については地元企業と一緒に社会実装に取り組んでいく。



フィールド学習



白動運転







ご覧ください。



ぽーぽいPJT情報誌